

病害虫防除技術情報第4号

令和8年7月10日
三重県病害虫防除所

斑点米カメムシ類の発生量が多くなっています。
出穂直後の防除を行いましょう。

1 対象作物: 水稲(早期、普通期)

2 対象病害虫名: 斑点米カメムシ類
(特にミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ)

3 発生状況と今後の予測

- (1) 農業研究所(松阪市)の水田予察灯(6月第1半旬から7月第1半旬)におけるミナミアオカメムシの誘殺数は平年より多くなっています(表1)。
- (2) 7月上旬における畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り調査では、発生ほ場率が平年よりやや高くなっています(表2)。特にミナミアオカメムシは平年値を大きく上回っており、また、クモヘリカメムシは多発しているほ場も見受けられます。
- (3) 1か月予報(名古屋地方気象台発表)によると、7月11日からの1か月は気温が高く、斑点米カメムシ類の増殖・活動には好適な条件となると推察されます。

4 防除対策

- (1) 畦畔のイネ科雑草からの本田への移動を防ぐため、畦畔除草は出穂10日前までに行いましょう。
- (2) イネカメムシ、クモヘリカメムシ及びミナミアオカメムシは大型であるため、出穂直後の液剤散布が効果的です。平年に比べ出穂期が早いため、防除時期を逃さないよう注意してください。
- (3) 発生が多い場合は、1回目の10日後に追加防除を行ってください。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RACコードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。
- (5) 斑点米カメムシ類は移動性が高いため、広域での一斉防除が効果的です。
- (6) 防除薬剤は農薬情報検索システムで調べることができます。
農薬情報検索システム: <https://pesticide.maff.go.jp/>

表1 予察灯における斑点米カメムシ類誘殺数(頭)

斑点米カメムシ類	水田			畑		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
アカシヅカミカメ	0	623	122.1	209	846	475.2
アカヒゲホソミドリカミカメ	6	106	32.8	81	283	142.5
ホソハラカメムシ	0	2	1.2	0	32	12.6
クモハラカメムシ	0	1	0.6	0	12	6.2
ミナミアカカメムシ	43	53	13.6	152	1,112	291.3
イネカメムシ	11	27	16.5	1	61	24.9

予察灯(6月第1半旬から7月第1半旬)における誘殺数(三重県松阪市)

平年は平成28年から令和7年までの平均

表2 畦畔でのすくい取り調査による斑点米カメムシ類発生ほ場率(%)

斑点米カメムシ類	本年	前年	平年
アカシヅカミカメ	28.0	36.0	26.7
アカヒゲホソミドリカミカメ	8.0	15.2	9.3
ホソハラカメムシ	21.6	33.6	15.3
クモハラカメムシ	13.6	15.2	9.5
ミナミアカカメムシ	4.0	0.8	0.9
イネカメムシ	0.8	5.6	—

本年は7月1日から7月8日における巡回調査による

20回すくい取り

平年は平成28年から令和7年までの平均

5 問い合わせ先 三重県病虫害防除所 電話:0598-42-6365

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。